

南瓢記

ル 7
3062
1



門 儿 呂 日
號 1490
卷

門 儿 ？
號 3062
卷 1

書肆枝芳軒 攜其所著南
瓢記乞弁一言曰 小人後
僅云而侏離唯其所聞輯錄
成卷庶充兒女笑話耳 予曰
書者事之實也 僅言則記其所
聞侏離 乃存其實 是固海外



新異之說也。而旨以有符證。其
身世之冥。鬼為說者矣。吾銷
奔以慰。永懷不翅。兒女笑話
博洽之士亦固當有取也。

寬政丁巳季冬

中野復樞



自序

鏡の明をりつゝ像をみく水は氷
とつゝ清とつゝ風被りよつゝ海上漂
流難あり火人の用しつゝ自中とつゝ
一燈先高きにはありつゝ去る近見當是正
火流たるもど燈屋を暗く例は有る也
別らん友書肆栗田子に目しつゝ國
字を讀むしが文紹しつゝ思あり當

冊子南海の異邦を行て一隔年姑
 ついで跟蹤と凌本國ふ所航し
 初中後とち南道通人の進中程
 一國は度敷とまよやまで孫雙徳は
 生説奇談摘漏と海山素流の本
 郊業草買とりけり同くふまは
 南有母と著意はるを一つ書と亦
 先混亂しと拾輯せん南航記

と題すやじ

おき軒し

凡例

- 一 海陸道法里數國所より同くかゝる處にて日本道三十六丁とりく一里の數よかかゝり定之
- 一 大船三十六本の帆をとり一吋六里と走る事規矩とて是とりて船路里數推之
- 一 國所言語小和辭あり不殘倭國の詞を改之
- 一 名所古跡茶禮佛事金銀茶棧男女衣裳木芝居或者船抄ひ禽獸魚鳥畑物木竹諸の器物并に舟路道の記よかまゝてを抄記之

一北極出地の度数以諸書考之
一國所の氣候ハ人によりて知之

靜之誌

南飄記目錄

卷之一

○發端

○風土

卷之二

○安南王都

○旅宿

○女商人

○西山小村

○詞解

○永長寺

○貨物

卷之三

○ 深節

○ 強勢

○ 服

○ 關帝

卷之四

○ 花街

○ 和漢節用

○ 禽獸虫

○ 時放飼

○ 男女座

○ 夫婦別

○ 西山小

○ 木竹

○ 晦乞

○ 西山話

○ 可馬巷

○ 見附

卷之五

○ 廣東州

○ 花嫁

○ 祭禮

○ 船路

○ 賀出帆

○ 同詞

○ 盆

○ 城下

○ 野邊營

○ 可有物

○ 左甫

左常一ツの靴と杉海と渡時ハ靴とさうまきと
いふちる波清ととも美かく渡を陰ふあるこゝの靴
の中より駒と出して赤まゝの袴は飛坊しけは
海と廻る本國よる身より後て人皆南靴道人と呼令
幸都とてさか白河の中より神通を以てけしに
おん怒よ異國の風とて吹べしとさうひまなま
とおりの急然とて白髪の花翁靴と括くお現
しあが敬しと備よとつとて半の坊方と認る
道人徽笑とふし物語とぞ始むひる作に逢は前

比ハ八月廿日余りのこゝろよ我ら旧里渡奥のふぢの
浦迄の渡つてし秋風強ふさむはらみふとて同じ
友同志おそきて遊とあんとするよえ靴とてれす晴や
らぬま返渡のけしとて旅一日二日とえ念と月半の日
をこして渡次の月廿七日午の申頃風にすうせ北風よを
登り具夜も同じ風小帆と張り廿九日の夜夜は南
風小吹かより廿日の又つ時より又さうくしと小風吹
かし申の刻よハ大雨風車油とふしとげしとさ
浪は瀬上ゆりさげは方ハ美悪害のこゝく悪風まてく

強く吹よの船と歩るを梶と折橋小舟までも打流し
十六人のある汗あよなり命限り根かざりは働も只吹
すまゝさびまじせむふく帆柱と切大風は汐浪も
逢巻よりめりかごとと極老かきこれさる内夜もあひ
とあましーがますとく風の勢ひはよく又南風しつりた
げしーとつらんさあしー毎夜強石と認て方角と考
つるまもさうく大風よ吹ますとされ風下つくと流しつり
日の九つ時よ向よは八丈がし海のどくちなる所と見付梶
つうと極よ三帆とさげ綱と武房表よ仕つけ若れ等

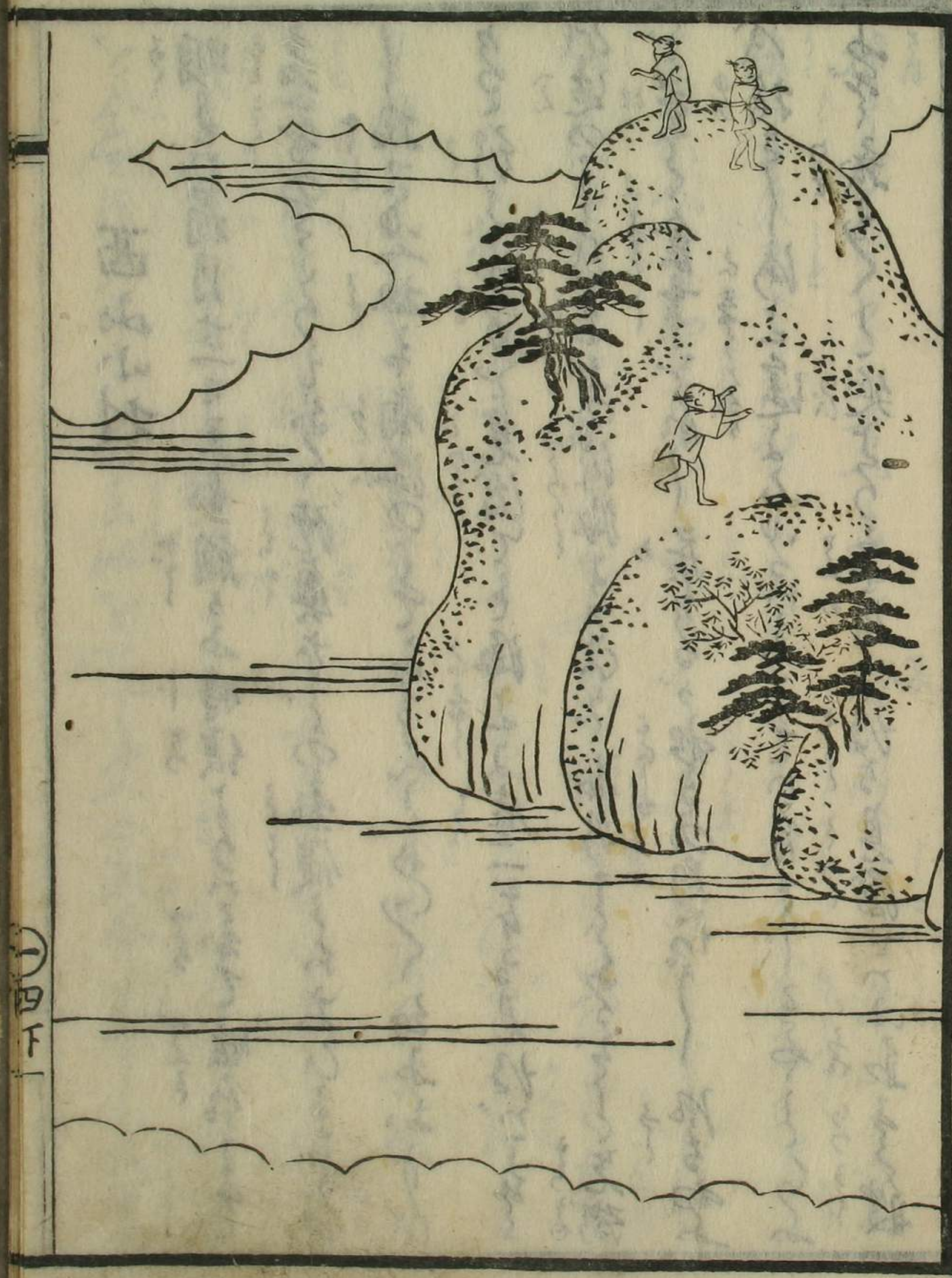
と月高よかひけるしーいとも風を次舟に登んよなり汐浪
逢まのつしーとつりさかきとまらうの昼夜のつちもふく
十六人の者ども命かしく運とまよ任せいつくといふあて
ともあく毎日く吹風を成言とさる西寅よまよ己午ら
しおりの内よ末申つ吹まり一氣力勢も七つんさる
潮十月廿日朝よ辰よら子丑風よ吹きり天を映晴に
かり風を積りしーが翌月二日まがれ吾水とさるしー
一向咽のうら月ひふく飯と焼しーいかなとさるしーと祚伴一
祈願とふせがしーづ風あるさる雨とさるぬしーせ

ひかく生糸なまことみみ日ひとほろろくく月つき調あはれよりいけり
の息いきでせせりせせりかきこくかきこく焦熱あせうの苦くるししも形かたちあ
んとおよそと兵たけな泣なみかふししりりししが七日ななひまでい
命いのちをつまきりりりり今いま一日いちにちも水みづふくていけいいかきこく
夜九時よるくは十六人じゅうろくにんも髪かみと切き右みぎ神宮かみみや三さん朝あさのの雨あめ乞こ祈いのり
祈いのり神かみのの意いををあてあてぬるぬる八日やっぴつ曉あけぐくくよりより室むろううとと曇くもり
す日ひたうりもも大おほ西にし類るいはは落おちつつととああ桶おけもも桶おけたたししいい禰ね登のぼり
よよららままでで天あま水みづととりりととああくくくく人ひとをを地ちよよららとと神かみ
の納のう受じの有ありががくくめめぐぐ身みとと法ほふめめ右みぎ神宮かみみやとと休やすむむとと湯ゆと

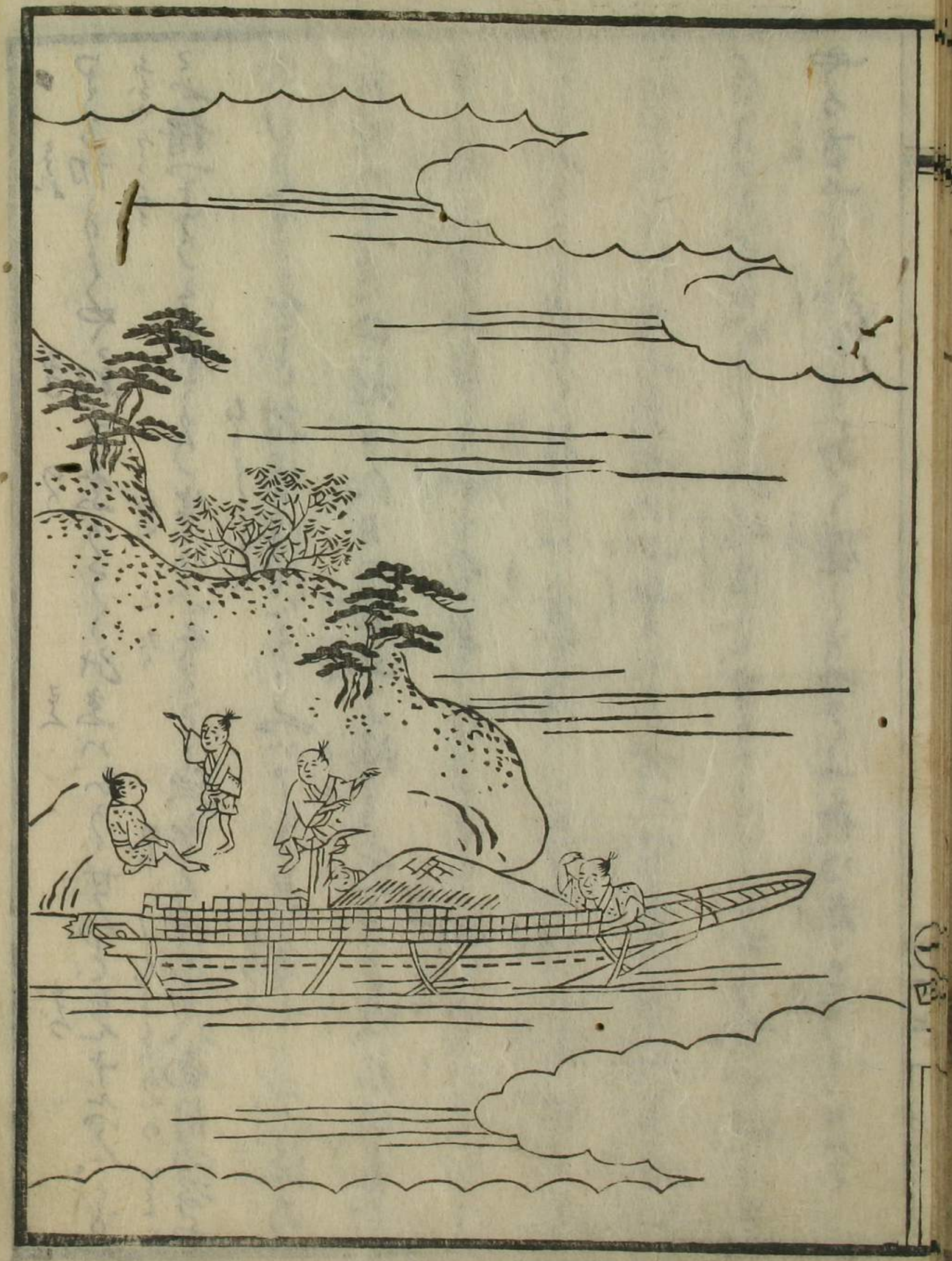
まの ちりくくちりくく やと
法ほふとと息いきとと休やすむむとと湯ゆとと湯ゆ
かかくくんんままいい九く八はち十じゅう日にちたたううりりよよららりり流ながれれてていいううるるまま
ととわわくく細こままままららふふららりりちちととああくくくくくく浪なみ小こ
海うみにに又また十じゅう日にちもも山やまをを見み得えとと誠まことはは世よ界かいのの大おほ灘なみとと夜よと
見みかかししこことと縁ゆかりもも取とれれももふふららままはは浦うらととふふくく室むろをを成なり
たたれれしし日ひととおおくく其その月つきはは天あま水みづ多おほくく音ねししととああ十
六じゅうろく人にんもも不ふ沙さ面めん持もちとと足あしままでで種たねふふくくをを服ふくもも次つぎ方かた小こ張はり
満みくく月つきののちちりりとと我われももくくとと指ゆびととひひててもも足あしとと揮ひせせハ
まますすつつもも深ふかくくゆゆびびのの形かたちつつももぞぞああぬぬくくもももも名なをを入いりりく

りふち命の浪なみもがらうあまの藤肩ふじかたもあまのつらう遊あそも死しを
つと約束やくそくあまのいづくの浦うらあまもたゞまつと生死せいじ乃
程ほどと定さだめくく海濱うみづきおほよひかたも古神宮ふるかみみやの御加
護ごよそ人里ひとぢりをよせぬと内園うちぞのと持津もちつ乃内儀うちぎよ神の法
助たすけ少く霜月しもづき十七日あひだ明方あけあた朝日あさひと昔むかしよ一里いちりごころ末申すえのまの
方かたよふささい鳴山なるやまと見つけしはけきつらんさし行ゆか
崎さきなるまで漕こ舟ふねあせらるる是迄これまでたゞの強風あつぷよそ船ふねの
上うへゆらゆらきとみす七すづもゆらき用もち糸いとの志こころゆる繩なわあま
と志こころと掛かけ祈いのちまてのありしにわら水みづ七八しちはちも入いり

アも切りくや船ふねもまうくひまらいうせんといは十六人じゅうろくにんも
舟楫ふね下くだらうとせよりの雪ゆきのふさふさふさふさと吹ふきりには方かた八面はつめん目のなま
たけんまうせと村むら里り溪せき池いけもさしとと共とも青あおくもる海うみ乃
春はる時ときの十一月じゅういちがつの程ほどなる日の西山にしやまよ瀬せとそよ吹ふ風の音ねも
うら我人われびとも自身みづかみも心こころも骨ほねもとてそよと物人ものびとの身みもあり
てまごきよあまの心こころもと念ねんせ徳とくもに多おほ佛ぶつの外ほか他たも
ふくとりりけ十三じゅうさんカの小童こどもも六十むそ有あ余まの老人らうじん有あまに
手てよよとよかきしけ崎さきもさしなるこころしおりのががれし
やうあまの神かみもあまの魂たまもあまのつねのまよひし



四下

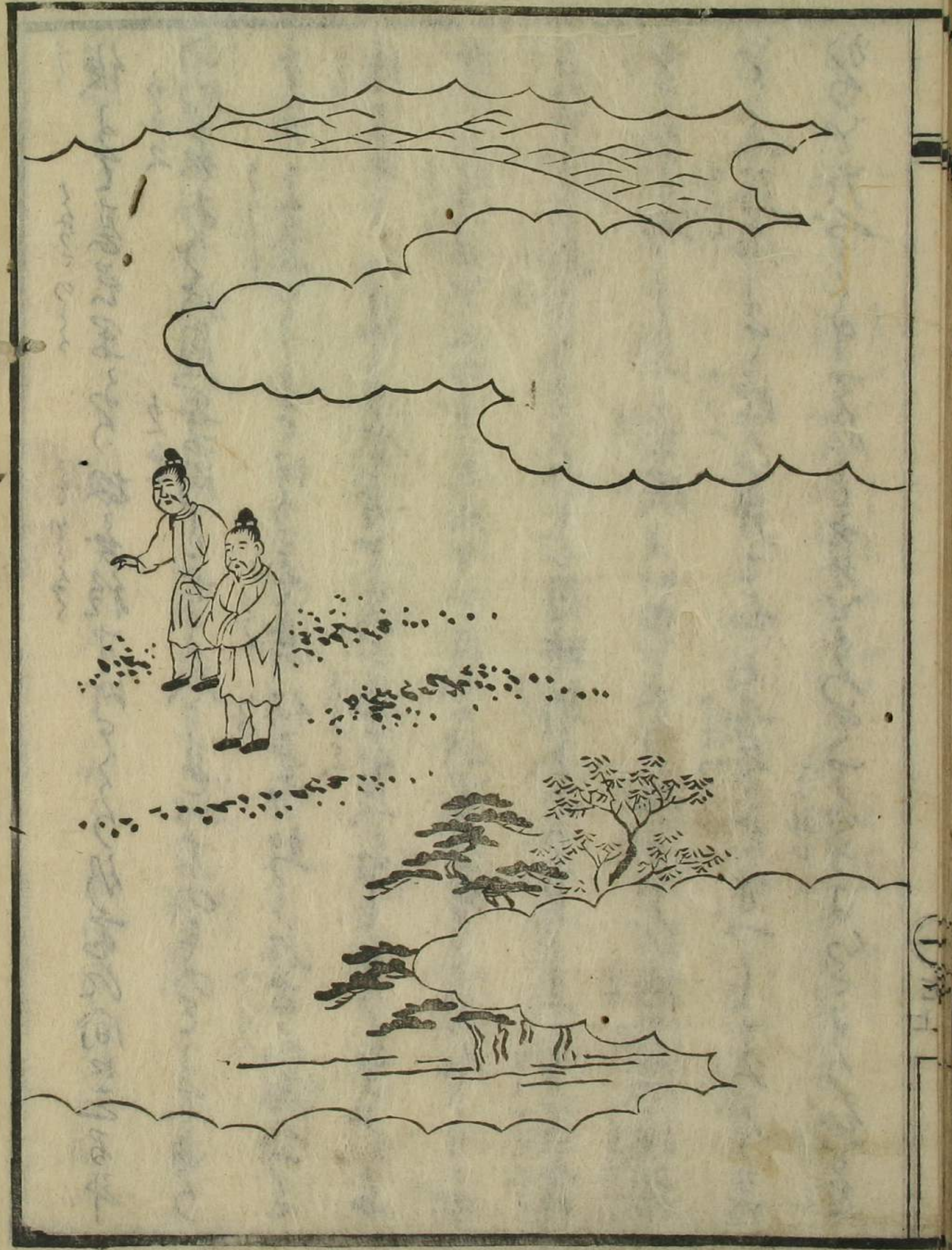
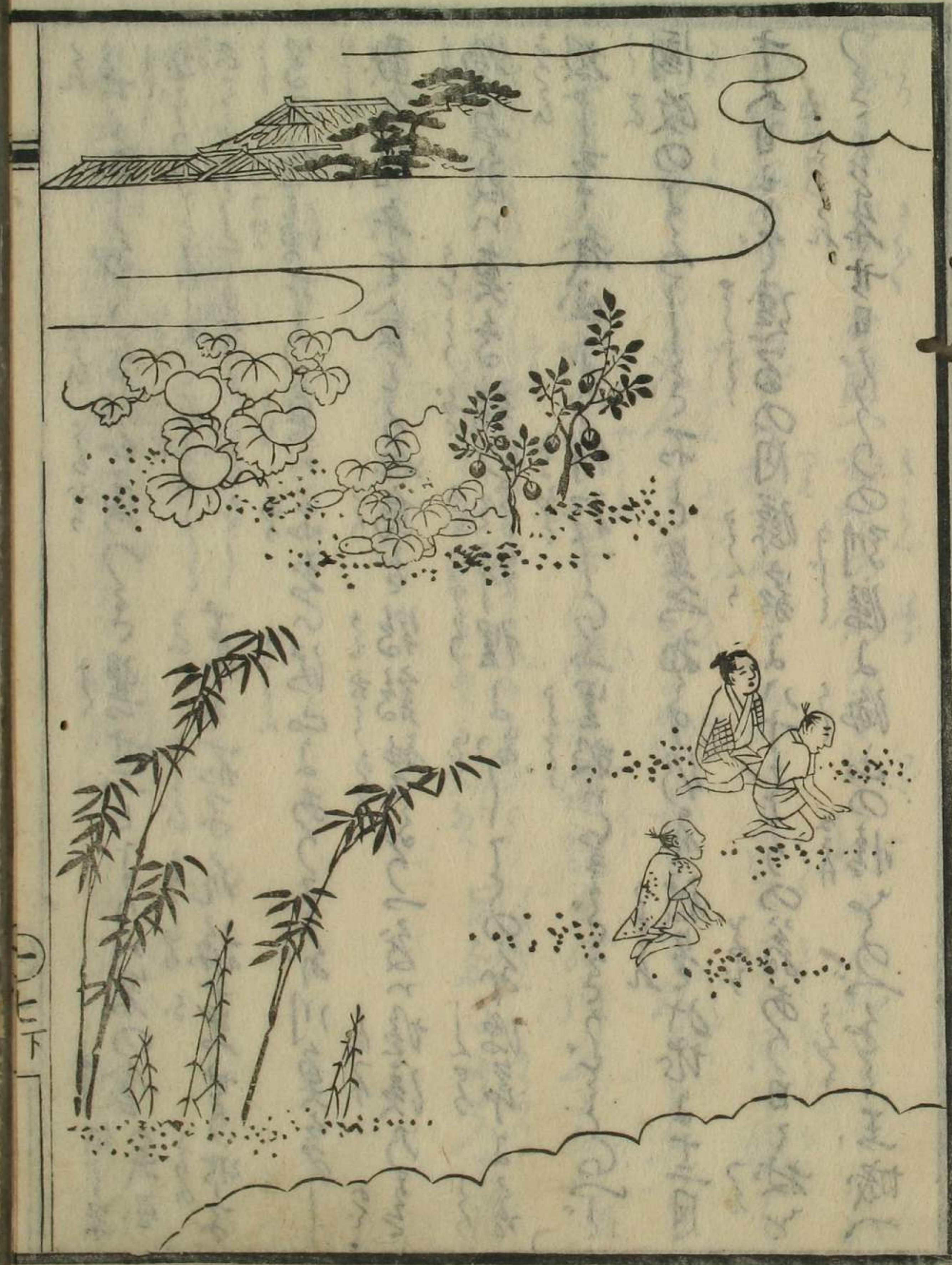


四下

西山小村

明^あはれ霜^{しも}月^{つき}廿^{にじゅう}日^{にち}天^{あま}氣^き潮^{うしほ}う^う小^こ時^{とき}候^{こう}よりい^いか^かて^て暖^{ぬく}氣^きう^うて
手^て前^{まへ}勢^{せい}の^のさ^さら^らも^もお^おく^く陸^{りく}奥^{おく}た^たの^の氣^き候^{こう}と^とお^おひ^ひよ^よら^らひ
一^{いっ}搦^{なつ}子^しゆ^ゆへ^へぬ^ぬち^ち南^{なん}海^{かい}の^のさ^さら^らも^もお^おく^くと^とあ^あい^いく^くを^をお^おり^り
り^りと^とお^おく^く四^よ方^{ほう}と^と見^み渡^{わた}て^てと^と海^{うみ}と^と塵^{ちり}一^{いっ}本^{ぽん}も^も見^みた^たら^らず
け^け遠^{とほ}の^のさ^さら^らも^もお^おく^く流^{なが}海^{かい}と^とい^いう^うが^があ^あり^りて^てあ^ある^るさ^さら^らも^もお^おく^く先^まづ
と^と煮^にく^く食^く事^じと^とぬ^ぬち^ち一^{いっ}居^いる^るが^が水^{みづ}の^の内^{うち}に^にぐ^ぐ一^{いっ}風^{かぜ}も^も
成^{なり}指^{さし}ぐ^ぐ一^{いっ}海^{うみ}と^と遠^{とほ}よ^よみ^みゆ^ゆの^のあ^あり^りて^てい^いる^るが^がさ^さら^らも^もお^おく^く
あ^あら^らわ^わく^く一^{いっ}矢^やより^りを^を目^めよ^よけ^けち^ち見^み渡^{わた}せ^せぬ^ぬが^があ^あら^らわ^わく^く

掉^おろ^ろし^して^てさ^さら^らも^もお^おく^くの^のさ^さら^らも^もお^おく^く林^{はやし}け^け時^{とき}の^の怪^{あや}し^しい^いと^と又^{また}
語^{こと}り^りを^を更^{さら}ま^まよ^よら^らだ^だと^と三^{さん}日^{にち}町^{まち}も^もを^を附^つけ^けて^て只^{ただ}あ^あら^らわ^わく^く
て^て十^{じゅう}六^{ろく}人^{にん}も^も助^{すけ}長^{ちやう}と^とい^いふ^ふり^りく^くさ^さら^らも^もお^おく^くの^のさ^さら^らも^もお^おく^く
次^{つぎ}等^{とう}に^にを^を附^つく^く半^{はん}町^{まち}半^{はん}向^{むか}ひ^ひま^まで^で潜^{ひそ}ま^まる^るは^はい^いと^とお^おく^く
と^とう^うり^りよ^よ招^{まね}し^しが^が十^{じゅう}六^{ろく}人^{にん}も^も整^{ととの}も^もお^おく^くに^にあ^あり^り面^{めん}積^{せき}も^もえ
を^をお^おく^くを^をさ^さら^らも^もお^おく^くの^の見^み苦^{くる}し^しと^とい^いふ^ふが^があ^あら^らわ^わく^くの^の依^より^り
と^とう^うり^りよ^よ招^{まね}し^しが^が十^{じゅう}六^{ろく}人^{にん}も^も整^{ととの}も^もお^おく^くに^にあ^あり^り面^{めん}積^{せき}も^もえ
紙^しよ^よ懸^かけ^けて^て送^{おく}る^るが^が紙^しと^とい^いふ^ふが^があ^あら^らわ^わく^くの^の依^より^り
と^と金^{かね}を^を送^{おく}る^るが^が一^{いっ}む^むの^の言^{こと}似^にと^とせ^せぬ^ぬが^があ^あら^らわ^わく^くの^の依^より^り
と^と金^{かね}を^を送^{おく}る^るが^が一^{いっ}む^むの^の言^{こと}似^にと^とせ^せぬ^ぬが^があ^あら^らわ^わく^くの^の依^より^り



方より巡りて河内院廣東阿媽港船を介して南の南船川
に碇をおろし交易好む華の地にて漢村漢はあれ
嶺南山と掃さる新穀多市から川魚はふり
て海魚も赤鯧多り青物年中烟は熱し大木小
木菓と糖も食用と助け竹のやい未考有むと
一金銀銅鉄より銅を廣東より得て八本年より
及熱し大豆小豆は同様に後には帆碇の煙方
風実氣ありて情涼し國王仁政を尊し民
艱苦の時ありて只南海の果よて得る多し故に不

時は合戦の備へ多しと云ふ平生軍器の調練は
たかく去る景興五十四年四月より西山國王城より
征伐始りしに未だ勝死わらざりて為討はるる
船軍の用を頻りにて是は彼も報しと云ふ八卷の末
よ記せらる

南甌記卷之一終

Handwritten text in the upper right section of the page, possibly a title or header.

Main body of handwritten text in a cursive script, enclosed within a rectangular border. The text is arranged in several lines and appears to be a detailed record or account.

